

# 新聞に興味をもち、生活の中に情報を生かし、 自らの力を高める子どもの育成

下高井郡木島平村立北部小学校 両澤 宏樹  
小田切澄男

## 1 はじめに

平成16年度、17年度の2年間にわたり、NIEの実践活動の指定をいただきました。貴重な機会をいただき、これを機に大いに新聞に触れて、情報を活用しながら自らの力を高めたいと、意気込みでのスタートでした。新聞各社からの支援をいただき、複数の新聞に触れることができました。もっともっと活用し、この事業の趣旨に沿った活動にすべきでしたが、不十分であったことは否めません。2年間の指定終了にあたり、謙虚にこれまでを振り返りながら、この2年間の意義を今後につなげていきたいと考えています。

北部小学校は、自然環境に恵まれた中に位置し、全校102名、1学年1クラスの小規模な学校です。村には、小学校3校、中学校1校、高等学校1校があります。

木島平村は、村全体を『自然劇場』と銘打って農業と観光をメインの産業とし、有機農業を目指し、また、スキー場・温泉への誘客に努力しています。温かいもてなしの心で遠来の客を迎えようとしてきています。

今年の冬(平成17年~18年)は、とてつもない大雪に見舞われ、苦しい努力を余儀なくされました。新聞、テレビを中心に、この大雪に関わる報道に多くの紙面と時間を割いていましたが、この情報を活用して、私たちのふるさとの生活を考えてみようと思いました。

子どもたちの実際の学習にまで至らず、教師の教材研究の段階に止まった報告書となってしまったことをお許しください。



## 2 新聞活用の環境設定

どうしたら、子どもたち・教職員がより多く新聞に触れることができるか考えた。

- (1) 新聞が次の日になると、他の用途に使われてしまい、もう一度読み返そうとしてもその新聞がない状況が続いた。新聞を一つの情報源として保存しようと考え、図書館での保管を実行した。

(平成15年度~現在)

- (2) NIEの指定1年目。校長室に新聞コーナーをつくり6社の新聞を並べ児童や教職員が自由に閲覧できるようにした。児童に新聞の良さを伝えていくには、教職員が手軽に新聞に触れられることが大切ではないかと考えてのことである。児童は時折、校長室へ来て新聞のページをめくる様子がみられた。教職員も校長室から新聞を持って行き、職員室の大机で新聞を広げる姿があった。

(16年度)

- (3) NIE指定2年目。新聞コーナーを図書館に設置した。新聞の配達日は職員室に置き、教職員が閲覧できるようにし、次の日に、図書館の新聞コーナーに置き、児童が自由に閲覧できるようにした。より自由に新聞閲覧ができる場所ということで、図書館に新聞コーナーを設置した。

(平成17年度)

- (4) いずれの年度も、新聞のバックナンバーは、各社ごと日付順に重ねて保管した。

### 3 新聞記事に興味をもたせるための手だて

どのようにしたら新聞記事に興味をもち、活用する意欲をもつことができるのかと考え、手だてを講じてみた。

- (1) 学習に役立つような記事や子どもたちが喜びそうなスポーツなどの記事は、子どもたちや教師に紹介し、新聞に対する興味・関心を高めるよう配慮した。
- (2) 児童会の委員会の一つに「新聞ふるさと委員会」がある。学校行事の紹介や身近な話題を記事にして掲示新聞の作成を活動の一つにした。
- (3) 校長講話の中で、できるだけ新聞記事を活用した話をするように配慮した。
- (4) 新聞に目を通し、自分が興味をひかれた記事について、新聞の日付と「見出し」をメモしておき、活用したいときに新聞のバックナンバーを見ることができるよう考えた。(17年度)

### 4 新聞活用を活発化するまでの課題

願うようには、なかなか新聞活用の意識が高まらない状況が見られた。その理由は何だろうか。

- (1) 小学校の児童の力からして、大人向けの新聞には抵抗が大きい。
- (2) 教職員が、教材となり得る記事に触れていないのではないか。
- (3) 新聞をもとにした教材発掘ができにくい状況にあるのではないか。(他にやらなければならないことが多い。学校で新聞を読むことに罪悪感をもっている。第三者から見ても、新聞を読んでいることが怠けに見えてしまう。このようなことから、教職員自身が新聞を読むことが少なくなっているのではないか。)
- (4) 新聞を見なくても、当座の生活に困ることはないし、ニュースはテレビで知ることができる。
- (5) 新聞に盛られる資料・情報の多さに圧倒され、自分の非力を感じてしまう。(資料・情報を自分の活用目的に合わせて選択して活用できれば良いと考えているが。)

教職員が、子どもたちに合った学習の場を適切に設定し、興味・関心を引き出しながら新聞活用を積極的に勧めていくことが大切ではないか。

### 5 新聞活用と学習とが結びつき、学習が深まりそうな場面

- (1) 6年理科「大地のつくりと変化」火山による変化、地震による変化等での新聞活用により、学習と現実を結び付けることができ、学習することの意味を子どもたちに納得させることができる。(新潟県中越地震、インドネシア沖地震等の現実的な災害をもとに学習を深め、人間と自然との関わりのある方を考えることができる。)
- (2) 5年理科「天気の変化」新聞の天気図や各地の天気予報等の資料を連続的に収集し、天気の変化に見通しを持つ力を養うことができる。昨今、インターネットを使って天気図を呼び出し学習をしている授業場面をみるが、子どもたちの意識の中から新聞の天気予報活用の意識が消えかかっていることは寂しいことである。複数のメディアの活用を勧めたい。
- (3) 4年社会科 ゴミの行方とその処理について、現実の課題に直接触れながら学習を進めることができる。資源のリサイクル、生ゴミの堆肥化、木島平村が力を入れている有機農業との関連等を意識して学習を進めることができる。



- (4) 道徳での活用 社説、コラム欄等の活用により、身近な資料として考え合うことができ、実践化への大きなエネルギーを得る事ができる。
- (5) 国語科 児童の表現力・発表力を高める必要がある。人間関係をより良くしていくために、自分の気持ちを言葉によって相手に伝える『言葉の力』をつけることが必要である。新聞を活用しながら、発表の題材を見つけることも有効である。

社会の動きは、あらゆることが総合的に絡み合っ生まれてくる。目を覆いたくなる事件も、ほほえましくなる人の姿も現実である。人が元気を得ることができるよう記事の発掘をしながら、学校での教育の場で活用できることを大いに願っている。

## 6 平成17年度の新聞活用の実際（学習場面の設定）

### (1) 5年生の理科の学習 「天気の変化（1）」

学習内容

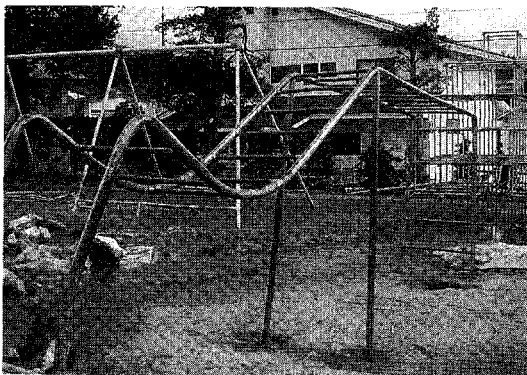
- ・ 天気の変化のようすは、どんな情報で調べられるだろうか。  
テレビ、新聞、インターネット、気象衛星、アメダス等
- ・ 1日（晴れた日、雨やくもりの日）の気温が変わる様子を調べよう
- ・ 台風による天気の変化を調べよう。

学習指導要領の中には、冬の天気、特に雪に関わる学習は位置付けられてはいない。地域に根ざした特色ある学校教育が求められている今、この雪のある生活こそ大事にしなければならないことではないだろうか。

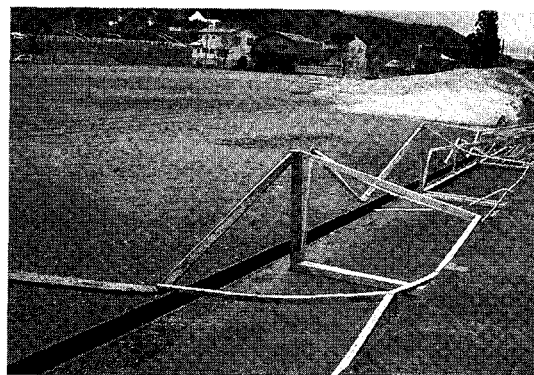
理科の学習内容として学習する義務はないが、地域に根ざした学習の場として大事に扱いたい。

### (2) 木島平村の雪の実際

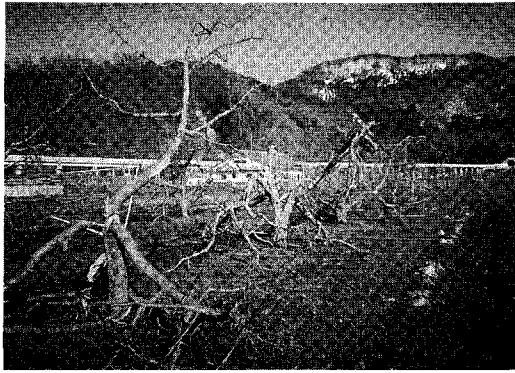
- ①この地域の人々は、少しぐらいの雪には驚かない。子どもたちも雪を遊びの相手として、喜びの対象としている。しかし、今年の雪はいつもの雪とは異なっていた。60年ぶりとも80年ぶりとも言われる大雪であった。
- ②12月28日、2学期の終業式の日、すでに積雪は180センチメートルになっていた。この積雪に、この先の不安を感じたのは大人であった。（あわてて積雪計を手作りして設置）
- ③1月4日、校舎の屋根の上には240センチメートルの積雪。雪庇落としが大変。（今年の雪に異常を感じる。）
- ④新聞に大雪に関する記事が連日掲載（教材研究参照）
- ⑤例年一番降雪の多い2月には降雪が少なく、晴れの日が多かった。（昨年は2月に降雪多し）
- ⑥雪解けが進み、雪の下から遊具、樹木、学校施設等が顔を覗かせ始めると、ひどい破損の状況が見えてきた。



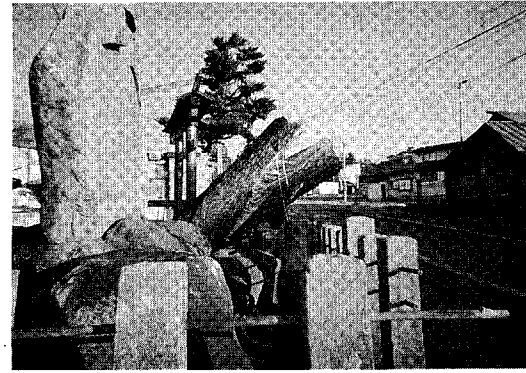
ねじ曲がった雲梯



雪で破損したサッカーゴール



幹が裂かれたリンゴの木



倒れた神社の大木

### (3) 学習の展開

ねらい

大きな被害を残した今年の冬を振り返り、冬の厳しさを感じながら、助け合ってそれを乗り越えた木島平の地域の人たちの努力と苦勞を知る。

学 習 活 動	予想される反応、教師の指導・手だて
<p>1 今年の冬の様子を思い出す。 (自分の体験から感じた事実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学の時の苦勞を思い出しながら今年の冬の様子を話す。</li> <li>・家の人や地域の人々の活動や話などから、今年の冬の生活の様子について知ったことを話す。</li> </ul>
<p>2 雪が消え、見えてきた雪被害の写真や、子どもたちが見つけた被害を語り合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な所にあった雪被害から、地域全体を見た時の被害へと広げていく。</li> <li>・怪我等の人的な被害にも心を向けさせていく。</li> <li>・去年の冬との違いに目を向けさせる。 雪の量、被害の大きさ、生活の大変さ</li> </ul>
<p>4 60年ぶりとも言われる今年の冬の大雪を振り返る。 ・資料は、何を使ったらよいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで調べることができるかも。</li> <li>・新聞を使って、12月ごろからの様子を調べてみよう。</li> <li>・グループごとに手分けをして調べるといい。</li> </ul>
<p>5 昔の冬と今の冬の生活の違いを、地域のお年寄りの皆さんに聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車がなかったときのようすを知りたい。</li> <li>・ブルドーザーがなかった時はどうしていたのだろうか。</li> <li>・昔の方が雪が多く降ったという話を聞くけれど、本当なのかな。(地球の温暖化と関係があるのだろうか。)</li> </ul>
<p>6 今年の冬の様子を、テーマを決めてミニ新聞にまとめて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B4の大きさの用紙を使って、ミニ新聞を作る。</li> </ul>
<p>7 来年の冬に対する自分自身の関わりを</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年もこんなにたくさんの雪が積もったらつらい</li> </ul>

<p>予測する。</p>	<p>なあ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りだけのおうちはこんな時、どうしていたんだろうか。</li> <li>・私たちがお手伝いできそうなことには、何があるのだろうか。</li> <li>・冬にしかできない楽しいことを、もっとたくさんやろう。</li> </ul>
--------------	--

## 7 教材研究（新聞記事にみられる雪の状況）

### （1）新聞に見る今年の雪（S社新聞の雪に関する記事）

<p>1 2 / 4 里に本格的な雪（飯山地方に大雪注意報）</p> <p>5 冬本番 南信でも雪</p> <p>6 県内全域で大雪のおそれ</p> <p>1 4 県北部大雪 交通乱れる</p> <p>1 5 暖冬予想に反し厳寒</p> <p>1 6 早くも2メートル 栄村師走の雪下ろし</p> <p>1 7 雪の飯山にイノシシ出没 上松町の教諭 除雪に奮闘</p> <p>1 8 今冬一番の寒気 大雪のおそれ 大雪の福井県内 倒壊相次ぐ</p> <p>1 9 県北部や日本海側大雪 師走の大雪 交通乱れる</p> <p>2 0 大雪 各地で記録更新（明日から再び強い寒気）</p> <p>2 1 諏訪湖ほぼ全面結氷</p> <p>2 2 寒波家庭を直撃(灯油価格過去最高に) 五竜スキー場 雪崩 県北部中心 大雪の恐れ</p> <p>2 3 県北部大雪 新潟・近畿130万戸停電 20年ぶり寒い冬 県内授業切り上げ相次ぐ グレンデ回遊 長野3スキー場</p> <p>2 4 県が大雪警戒本部設置 除雪が追いつかない</p> <p>2 5 県内大雪 停電や事故続く混乱 雪かきよりも雪遊び（飯田69年ぶり29センチ）</p>	<p>1 / 3 県内除雪作業や落雪</p> <p>4 県北部に激しい雪 県北部大雪 信越線など68本運休 ドイツスケート場 屋根崩壊</p> <p>5 県が豪雪対策本部 今夜から冬型強まる</p> <p>6 飯山でも倒壊(飯山市緑) 助け合いも手が回らず 県北部中心にさらに降雪の恐れ</p> <p>7 自衛隊に災害派遣要請 県「緊急性ない」から一転 雪の壁6メートル 再び大雪の恐れ 21年ぶり豪雪の栄村 雪中猛進（イノシシの出没） 雪処分でトラック運転手派遣</p> <p>8 陸自飯山で除雪作業 少しでも雪が減れば 累積降雪量 飯山史上最多ペース 地域住民も懸命除雪「雪国だから助けあって」</p> <p>9 除雪ボランティア本格化 栄村「蓄えはあるが」 飯山市では1981年（昭和56年）の観測開始以来最高積雪量</p> <p>1 0 雪に埋もれる集落（孤立する栄村秋山地区） 大雪死者 全国71人 久々の晴れ間 活気 2年ぶり御神渡 確認</p> <p>1 1 大雪 栄村に災害派遣 木造体育館倒壊（飯山市常郷） 秋山孤立3日目</p>
---	--

- 12/26 雪はひと休み 12月最低気温更新
- 27 雪に埋もれ信濃町で男性死亡  
信濃町 大雪で警戒本部
- 28 県北部の雪下ろし作業 人手不足  
の受託先費用負担重く  
異例 12月の排雪作業  
雪かき手助け隣家の優しさ(建設  
標)
- 29 飯山積雪2メートルの年末
- 30 多すぎる雪 苦労(スキー場)  
栄村、大雪3人一時足止め(五宝木)
- 31 屋根から雪 埋もれ重体  
御神渡り? 重なる氷



1階を埋める雪(1月7日の新聞より)  
 ・21年ぶり豪雪の栄村  
 ・除雪した道路脇の雪の壁は6mに

- 長野市の除雪費3億円突破  
子どもたくましく 豪雪の飯山地方  
年賀状などかくす 雪の中配達嫌に
- 1/12 屋根に凍結落ちぬ雪 週末気温上昇注  
意呼びかけ  
自衛隊栄村入り  
電柱から落雪 車直撃  
家で一人「心細い」木島平村の介護現  
場は
- 13 陸上自衛隊撤収式  
二中落雪 車5台埋まる  
雪下ろしに汗  
大雪高齢者犠牲に 死者の6割60代  
以上  
秋山への国道限定開通
- 14 飯山雪の下敷き 男性死亡  
御神渡拝観式
- 15 大雪死者 全国で90人に(飯山市寿  
の事故、栄村の事故)  
秋山小ようやく三学期  
雪崩、融雪注意  
校庭でスキー 雪国の楽しみ
- 16 大雪の死者94人に
- 17 ようやく安堵の声(秋山1日2回通行、  
孤立解消)
- 19 戻る日常残る傷跡 豪雪の冬秋山郷
- 20 県北部大雪 果樹など被害拡大
- 22 雪見舞いに一踏ん張り(建設標)
- 24 飯山で除雪活動 雪だるまみやげに
- 27 続く連休 JR飯山線
- 28 「家守れ」村民が除雪隊(栄村五宝木)  
飯山で高校生ボランティア(雪かき体  
験も)
- 29 雪の重みでボンベのガス漏れ

(2) 新聞から拾い出した各地の積雪量

月日	12/17 午後11時	18 午後10時	24 午後11時	1/5 午後11時	8 午後8時	
野沢温泉	127cm	161	217	296	340	
飯山	87	119	159	225	255	
小谷	85	108	159	192	199	
白馬	65	89	137	138	120	
信濃町	47	74	113	157	154	
大町		34	85			
長野		21	35		33	

### (3) 雪に関する話(平成17年1月26日、平成16年度の冬の話)

昨年の冬、2月に大雪が降り大変だったことを思い出す。卒業式の当日、90センチメートルの雪が消え残っていた。今年の雪の降り方は昨年の降り方とは大きく違っていた。12月と1月に休みなく降り続き、2月には晴れの日が続き、ありがたく感じた。3月16日、卒業式の日校庭の積雪は、120センチメートルだった。

#### 校長講話(平成17年1月26日実施)

(ねがい)

雪に負けないで、雪を楽しんで欲しい。(スキーを楽しめ。練習して上手になろう。)

先日はスキー教室がありました。楽しかったですか。(楽しかった)先生のグループを教えてくれた高橋先生は、スキーをしながら「スキップ」をやれって言うんだよね。難しかったな。でも、だんだんできるようになってきた。スキー教室はもう一回ありますね。みんなもっとうまくなりますよ。

きれいな雪のことを「白銀」ということがあります。木島平のきれいな雪がみんなに「もっとスキーを楽しみに来てね。」と呼びかけているようだね。こういう曲があります。「白銀は招くよ。」という曲です。(ハーモニカで演奏)どこかで耳にすることがあると思うよ。この歌の中には「ヤッホー、ヤッホー」と山に呼びかけるところがあるんだけど是非、今度山へ行ったら大きな声で「ヤッホー」と呼びかけてください。

雪はね、楽しいこともあるけど、大変なこともあります。今木島平にはどのくらいの雪が積もっているのかね。皆さん調べてみてください。

これから、みんなが信じられないようなことを話します。長野県は、日本の中で一番多く雪が積もった場所なんだよ。みんな、飯山市を知ってるよね。(知ってる)野沢温泉村も知っているよね。(知ってるよ)じゃあ、栄村は知ってますか。(無言)

栄村のJR森宮の原駅で測った雪の量が日本一だと言われています。そのときの雪の高さはこのくらいなんだよ。(竹の棒をつなぎ合わせ、1メートル、2、3、7と表示した棒を立てる。)はい、あの棒の先まで雪が積もったというんです。(体育館の床から天井までの高さがちょうど8メートルよりちょっと少ないくらいだね。こんなに高くまで雪が積もったんだって。どのくらい積もったか数字を教えるね。『7メートル85センチメートル』だよ。

最近、地球が暖かくなって(地球温暖化)雪が少なくなったって、おじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんが言わないですか。7メートル85センチメートルも雪が積もったのは、いつのことだったんでしょうね。昭和20年2月12日です。(短冊に書いて示す。)今、60歳になる人が生まれたころのことです。

(本『信州の自然99のなぞQ&A』を見せながら)家の出入りは二階からだったということです。隣の家へは雪のトンネルを掘って行き来したそうです。雪道を歩くときは、電線が足下にあって怖かったということです。

私(校長)が小さかったころの記憶でも、二階から出入りする方が楽なくらいの時がありました。屋根の雪を降ろす時も電線が邪魔になりました。(今より、電柱の高さが低かったことも事実)うそのような本当の話なんですよ。

先日の参観日の授業で、6年生が四つの漢字で作る言葉の勉強をしていました。雪の多いこの地域では、こういう言葉があります。『一里一尺』という言葉です。一里は距離を表す単位(言葉)です。一里は約4kmです。4km北の方(栄村の方)へ行くと、雪が一尺増えるというのです。私が生まれた桑名川というところは、飯山から北の方へ16km離れています。4里離れているのです。だから、4

尺雪が多くなるのです。1尺は（30cmの物差しを見せながら）約30cmですから、4尺は120cmです。120cmも雪が多くなるということですね。『一里一尺』という言葉も覚えておいてください。

雪は大変厄介なものかもしれませんが、雪に負けないで、スキーのような楽しいことをみんなで楽しみましょう。

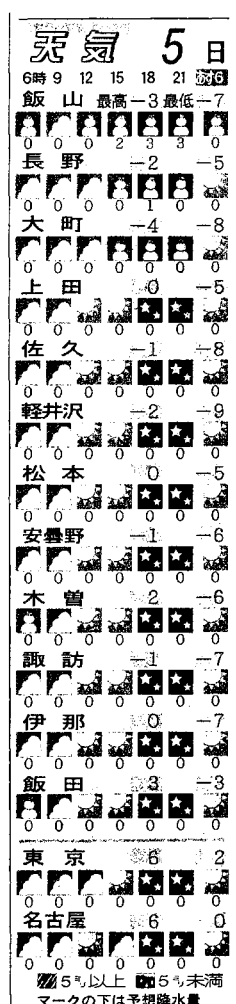
私の話はこれで終わりにしますが、今日は特別にゲストティーチャーを呼んであります。（竹内先生登場ヨーヨーをやって見せる。）（子どもたちの驚きの声）（急回転、犬の散歩、ブランコ、大回転等の技を披露）「先生（竹内先生）が子どもの頃はヨーヨーが流行っていました。いっぱい練習していろいろな技ができるようになりました。みんなもまたやってみてください。」

（校長のまとめ）すごい技だったね。みんなはすぐには出来なくても、練習しているうちにだんだんできるようになるんだよ。どんなことでも、はじめから簡単にできることはないんです。少しずつ少しずつ練習の努力をして出来るようになるんです。みんなもいろいろな遊びに挑戦してみましょう。

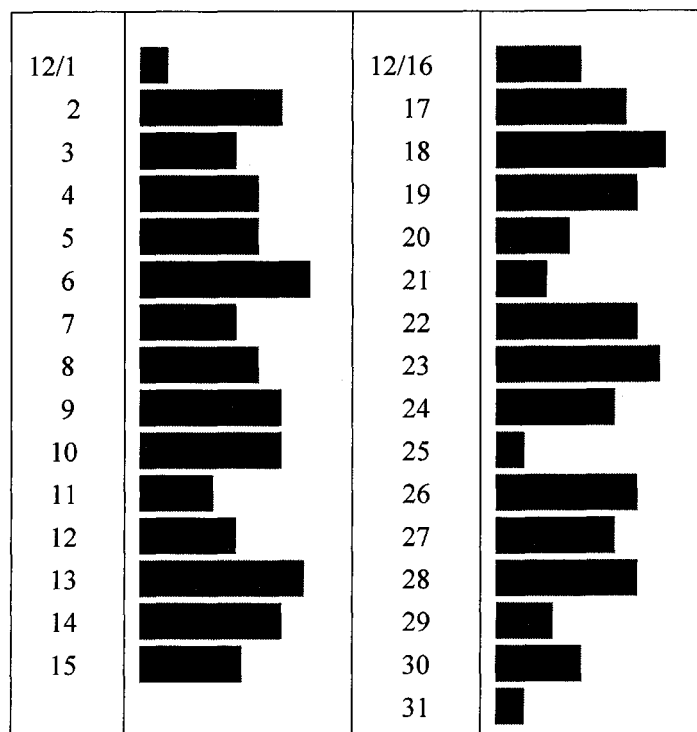
それでは、これで終わりにします。

※ ヨーヨーの流行時は、地域のスーパーなどでヨーヨー選手権大会が盛んに開かれました。

#### (4) 新聞の天気予報に雪だるまの数



1日を7分割し、その時間帯の天候を『絵』で示している。雪を『雪だるままで』表示。1日の雪だるまの数を数えてみた。



$$139 \text{ (雪だるま)} \div 217 = 0.64$$

(64パーセントが雪マーク)

## 8 成果と反省

- (1) 新聞記事の教材化や学習をより深く理解していく手がかりとして新聞を活用していくためには、教師自身の日常的な新聞とのふれあいが必要であると考え。特に小学校段階においては漢字、内容ともに子どもたちの力を越えていることから、教師の支援が必要になる。教師が意図的に子どもの目を新聞に向けさせる手だてと、新聞に対する興味関心を喚起することの必要性を強く感



じた。

- (2) 新聞は、日々膨大な情報を載せて私たちに届けられて来る。すべてを受け入れ、処理していくことは不可能である。自分自身の必要性によって取捨選択すること、選択する力を持つことが大切となる。学校での教科学習とのつながりを意識させた選択、テーマを持って継続的に記事の選択をしていく活用方法等様々な活用方法を見つけていくことが良いと思う。
- (3) 雪にテーマをしぼり、バックナンバーとなった新聞を見返して見ることにより、冷静に状況を把握する事ができた気がする。雪が降りしきる最中であっては、毎日毎日の生活（雪の処理）が大きな課題となり先の見通しが持てない状況であった。雪が峠を越え、心に少しのゆとりが出てきたとき、過ぎ去った状況を冷静に振り返ることができるようになった。新聞を見返しながら、新たに知りたいこと、調べて見たいことが生まれて来るような気がしてきた。総合的な学習の時間が設定され、学習が進められてきているが、学ぶ者一人一人に心地良い課題が連続的に生まれてくるのが、今大事にされている『生きる力』を育てていくことに通じるのではないだろうか。
- (4) 報道は点であることを実感した。県北部（北信濃）の大雪を取り上げてくださったことに感謝すると同時に、広い範囲に降り積もる雪ではあったが、記事となる所は限られた所（点）であることが分かった。
- (5) 折角いただいた新聞活用の指定事業を十分、子ども達の学習に生かすことができなかつたことをもったいなく思い反省をしているところであるが、新聞との関わりを考える機会を与えていただいたことに感謝申し上げたい。